

## 第2回 遺伝統計セミナー

### 『ゲノムコホート研究における遺伝統計学』レポート

2018年1月15、16日の2日間に渡り、「ゲノムコホート研究における遺伝統計学」を岩手県盛岡市に隣接する矢巾町にある岩手医科大学矢巾キャンパスで開催した。本講習会は2017年に初めて開催し、今回は2回目の開催である。生体情報解析部門特命教授の清水厚志は、コホート・生体試料支援プラットフォームの支援班として主にゲノム解析における技術支援を行っており、本講習会はその一環として行われた。今冬の盛岡周辺は雪が多く、当日も雪の降る中での開催となったが、名古屋を始め、全国から45名の参加があり、前回の19名をはるかに上回る参加者数となった。

初めに、本プラットフォーム分担者である日本多施設共同コホート研究（J-MICC 研究）主任研究者の若井健志・名古屋大学大学院教授による開会の挨拶があり、ゲノムコホート研究が主流となる中で、このような講習会が開かれることの意義が述べられた。続いて、本プラットフォームの支援を受けた小山晃英・京都府立医科大学大学院助教、中川弘子・名古屋市立大学大学院助教、西山毅・愛知医科大学准教授の研究発表が行われ、研究の経緯も含め、受講者と幅広く活発な情報共有が図られた。



若井教授



小山助教



中川助教



西山准教授

講習会中盤は翌日のハンズオンに必要な遺伝統計学の座学とした。株式会社ステージンの上辻茂男氏による講義が昼食を挟んで行われた。統計学に馴染みの浅い方でもわかりやすいように数式を用いた説明はほとんどなく、遺伝統計学の歴史の概説や、必要性、ゲノム研究で利用される統計モデルといった実際の解析に沿った説明を受け、初日は終了となった。

2日目は、主催の清水による、ゲノムコホート研究についての概説から始まった。つづいて、株式会社スタージェンの中園一幸氏の指導のもと、会場備え付けのパソコンを利用して、受講者自身が全ゲノム関連解析（GWAS）解析を行う実習が行われた。ティーチング・アシスタントによる補助もあり、受講者は解析ソフトウェアの操作方法やコマンド入力のアドバイスを受けながら熱心に取り組んでいた。実習後は本プラットフォームの支援者側の発表として、GWAS解析に精通した2人の専門家、八谷剛史・岩手医科大学客員准教授と中柝昌弘・名古屋大学医学部附属病院病院講師から、実際に支援を行う際に生じた問題点や、この分野の昨今の進展、GWAS解析により同定された感受性多型の機能推定についての解説がなされた。引き続き、この三人の講師と中園氏を交えたパネルディスカッションが行われ、受講者から寄せられた疑問や提案に対し、研究経験が豊富なパネリストが自身の知見や経験も交えて答えていた。



清水特命教授



八谷客員准教授



中柝講師



以上の発表をもって、講習会は盛況のうちに幕を閉じた。今回からの新しい試みとして、一人当たりの発表時間が5分のLightning Talkが昼食時に行われるなど、講演者、受講者双方の垣根を超えた意見交換がなされ、単なる技術や知識を教えるにとどまらない有意義な会となった。第3回以降の開催についても建設的な意見が出され、セミナー後のアンケートでは出席者から好意的な意見が寄せられていた。次回以降もいただいた意見を元に、支援を受ける研究者の方々に役立つ会として本セミナーを発展継続させたい（敬称略）。